

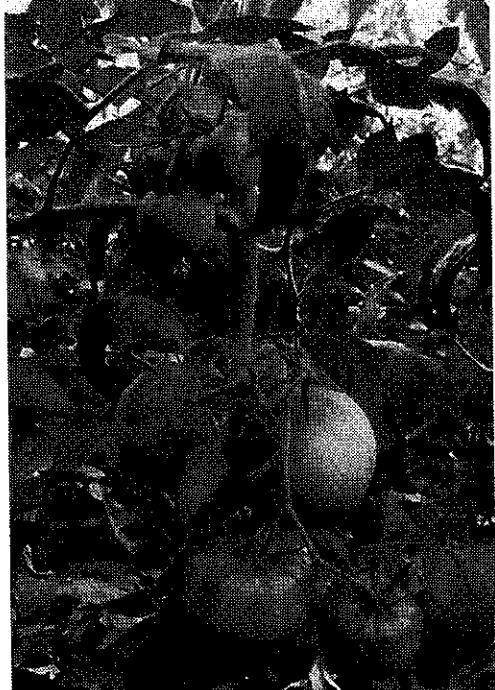
東京農業を守る「フルーツトマト三幸園」園主の森田信幸さん。隔離ベッドによる栽培で、1回目に定植したトマトが間もなく収穫を迎える

東京都杉並区并草

森田信幸さんは東京都杉並区并草というところ、いまも幾人か残りに居を構えている。付近きあたりは全くない。そうして、いまも農業を続けている。

森田信幸さん

「これは代々農業を継いでいる。私も元気がいい。今は東京から中央線25分くらい、付近を西武新宿線が通っている。まさにヘッドタウンである。うちの北側あたりが



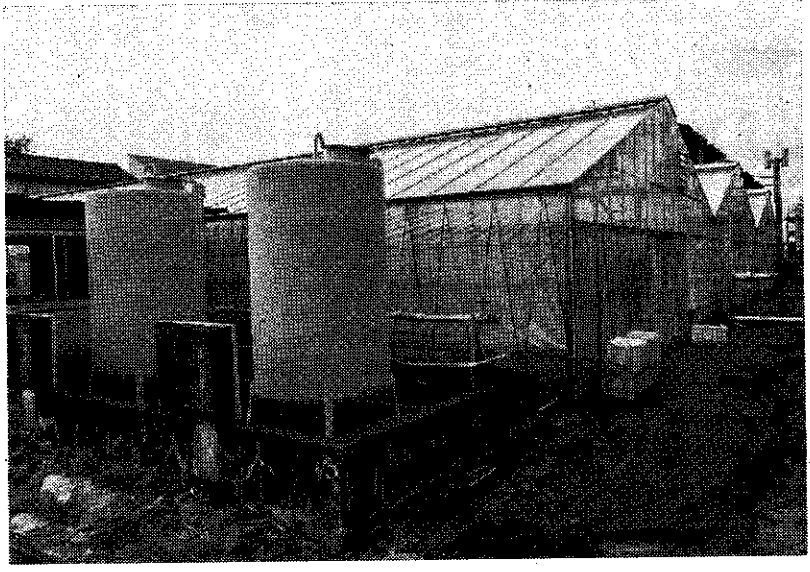
品種はサカタのタネのハウスパルト。冷蔵庫とLEDを利用して育苗している

都民の食卓に東京産トマトを (上)

あっぱれ森田信幸さんの心意気

杉並区の下真中で施設園芸

トマト作りがメイン



梅屋幸が施工した660㎡の3連棟温室。周囲は住宅に囲まれている

がこのひとの人生を決めが考案したと思えます。入れてよく温まるように年々変えていまして、たまたま。いま、都が、神奈川の厚木近辺で、田んぼみたいが大丈夫のようです。土

会人のトマト人気はすばらしい。スーパーや小売農家が何軒もあるように、それを真くらしいかやっていませ

り店ほろろん、大和屋です。でも養液栽培だと収穫量上がるみたいですが、糖度を出すのに苦労

する。ましてや個人住宅やマンションが多いところ、その点隔離ベッドのほ

うが味を調節できるみたい。はい、買った物袋に収まっている。でも当時は何も

知らずに始めたんで、言われるままに始めただけ

です」と森田さんは話

る。ましてや12月15日頃か

ら始める収穫をまだです

か待っている状態だとい

う。森田さんの住居のすべ

すべ側最近出来たハウ

スがあつて、そこは研究

用を兼ねて建てたもので

、この冬空にもかかわ

らずトマトが赤く実って

いる。「それは周年栽培

の研究用のもので、ここ

で保水性のある石、こ

れは建築なんかには使わ

土壌病害に気遣い

還元消毒でだいぶ楽に

住宅が増えると農薬散

布はむずかしいと生産者

は言っている。「うちも

昔情は来ないけれども

都市部ではやるなと言

われているみたいです。で

も臭いは多少出るけれど

もこれまで昔情は来な

とはないんです、温室を

出ると言われたので50

計画で掘り始めたので3

で水が出ました。このあ

たりには大きな川はない

のですが、千川上水とい

うのがあって、いまは暗

渠になっていきます」と

ことである。

エフクリーン

60平方メートルの温室

いまも隔離ベッドで

養液栽培では糖度

上げるのに苦労多い

「電話休憩。森田さんの

室であり、これも梅屋幸

さんのもので、外張りは

ガラスではなくてエフク

リーンを展張しているん

で少量培土である。深さ

は30センチ。「もうい

まはやっていないのか

60平方メートルの温室

トマトの温室は裏手に

ある。間口9メートル

の3連棟で、規模は60

平方メートルだ。1条植

えの株間40センチの

品種はサカタのタネの

「ハウスパルト」が入

っているが、森田さんは

売当初から取り入れて

るそうだ。

(次ページにつづく)